

巻 頭 言

里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター
センター長 宮浦 富保

「里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター」（里山ORC）の2年目の活動のまとめです。

2005年度は、「里山環境における鳥獣害問題の課題を探る」と題した里山ORCワークショップを皮切りに、われわれの活動を開始しました。里山といわれる空間には、野生の動物たちが生活する領域と人間の生活する領域を、緩やかに隔てる働きがあったのではないのでしょうか。そのようなことをじっくりと考えさせられるワークショップでした。

12月には、龍谷大学深草キャンパスと金沢大学角間キャンパスをテレビ会議システムで結んで、「人をつなぐ 未来をひらく 大学の森 ～里山を『いま』に生かす～」と題したシンポジウムを開催しました。両方のキャンパスとも多くの方に参加していただき、里山のあり方について多くの有意義な議論が行われました。このシンポジウムは、朝日新聞社との連携によるもので、大学の「知」を広く社会に発信することを目的としています。

本年度は、研究スタッフの活動範囲も広がりを見せ、龍谷の森における各種の調査も充実してきました。設備面では、龍谷の森の中に昨年度設置したバイオトイレと地下水吸い上げ配管システムが本格的に稼働し始めました。バイオトイレが利用できるようになったことで、多くの人が長時間にわたって、心置きなく森林内で活動できるようになりました。また、地下水の汲み上げができるようになったことで、沢筋に水場が見られない龍谷の森に、定常的な水場を創設することが可能になりました。龍谷の森の生物相がどのように変化するのか、今後見守って生きたいと思います。

そのほかにも、各種団体との連携、里山ORC研究会の開催、「龍谷の森」里山保全の会の活動の推進など、いろいろな取り組みを展開してきました。里山ORCの活動にご意見等をいただければ幸いです。